



宇谷一石五輪塔



宇谷・栄谷寺跡遺構分布図



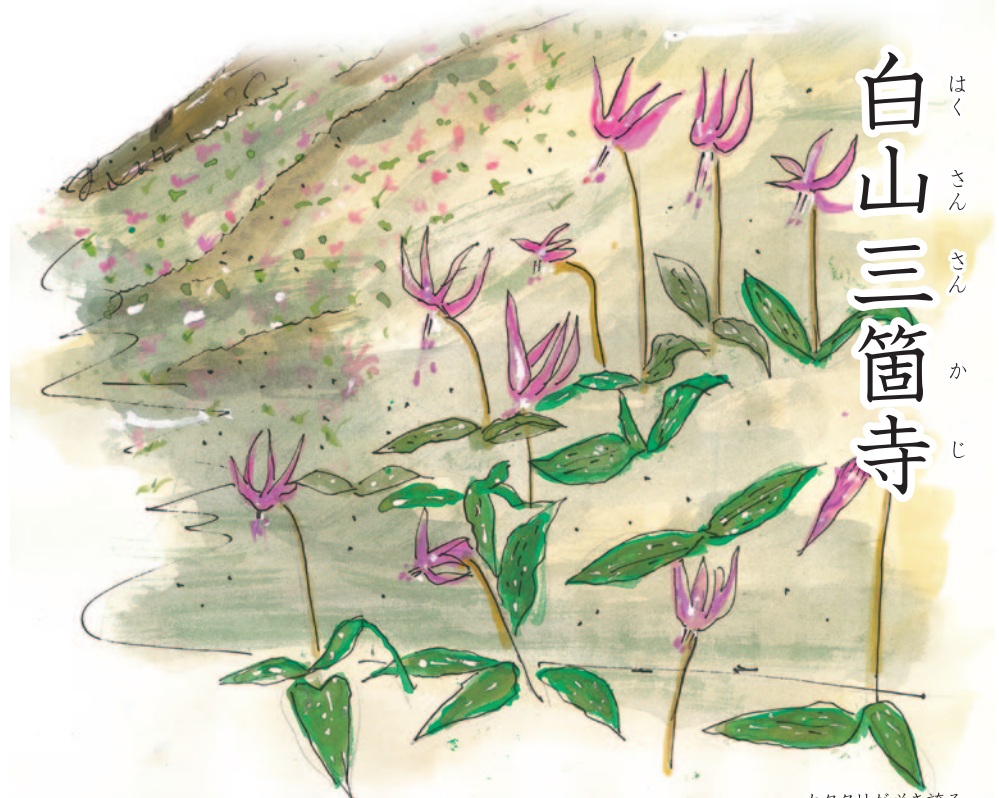
森林浴が楽しめる散策路



常楽塚板碑



行者窟跡



カタクリが咲き誇る

白山三箇寺

はく
さん
さん
か
じ

平安時代に入ると仏教は、密教が伝えられたことで、日本にもともと存在した山岳信仰などの神道と結びついていきます。加賀の地で最も篤く信仰されていたのは白山でした。温谷寺で書写された『白山記』という書物によると、江沼郡内でも白山五院や白山三箇寺(那谷・栄谷・宇谷寺)があったと記されています。

【那谷寺】

三箇寺の中で唯一、現在まで法灯を伝えていますが、他の二箇寺と同じく中世末期には廃絶していました。江戸時代に入ってから加賀藩前田家の援助で再興されたもので、秋の紅葉の名所として、又松尾芭蕉が奥の細道の途次に立ち寄ったことでも知られています。

【栄谷寺跡】

栄谷集落から東側の丘陵地に、「アカメダニ」という谷が南側に入り込んでいます。その奥の尾根上に栄谷寺跡があります。

【温谷護法寺跡】

高宮白山神社背後の尾根上に、数多くの平坦面があり、広大な範囲に、堂宇や白山遙拝所などが設けられていたようで、僧侶の修行場であった行者窟も数多く見つかっています。地名でも護摩堂や大坊などがあり、集落のある平地や対岸の丘陵にも、常楽塚を始めとする遺跡が確認されるなど、宇谷地籍全体が境内であったようです。

【常楽塚】

近年確認された宇谷集落南側丘陵裾にある大型の塚で、発見当時には周囲に五輪塔や板碑など、中世の石造物片が散乱していました。



塚は丘陵尾根端部を利用して築かれ、周囲に巨石を積み上げて作られ、頂部に仏像を安置した仏と思われる石室状の痕跡が残っています。

周囲の斜面にも板碑が配置され、現在一ヶ所のみ地藏菩薩を表す梵字が彫られた板碑が残っています。こうした状況から、この塚は密教の曼荼羅を立体的に表現しているようです。出土した石造物から、構築年代は鎌倉末期から下つても南北朝時代と推定されます。

【宇谷五輪塔】

宇谷町集会所の前に置かれた五輪塔は、もと「ミヨウカク」といわれた水田近くの塚にあったと伝えられています。一石五輪塔としては県内で最大最古と推定されています。



森白山神社五輪塔群

【森白山神社五輪塔群】

森町の白山神社にも多くの中世石造物があります。耕地整理の際に周辺の水田から出土した物を集めたと伝えられ、中世寺院の存在を推測させます。